

皆様、おはようございます。

お盆の時を迎えております。

今日は私たちも、信仰のうちにあって主のもとに召されました私たちの家族や、兄弟姉妹の方々を偲び、この聖書の、神様のおことばをひと時ご一緒に味わいたいと願います。

1 さて、信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである。

確信と確認。

昔はこうだったから、今も同じようにすれば大丈夫だということが、だんだんと、急速に通用しなくなっていることをこの頃特に感じます。私はあるのだ餡を長年愛用していますが、同じものを同じように注文しようと思っても、コロナの状況の中で、世界中からそののだ餡が脚光を浴びて手に入らないということが長く続きました。また、同じものが、びっくりするくらい高くなっているのを見ることがあります。あの戦争の後、コロナという病が蔓延してのち、世界は以前とは違うところとなってしまったように思う事があります。こういう先行きの見えない世界にあっては、物事を確認するとか、先の事の確認を取ることが、非常に不確かなものになってきているという印象を持ちます。

よく見て、確かめていても、明日になってみれば状況は一変してしまう世界。先が読めない世界の中に私たちは生きています。

そのような中、聖書は二千年たった今も変わらず、私たちに真理を伝えています。

1 さて、信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである。

私たちには色々な望みや願いがあります。それらに立ち向かうのが、世の中の厳しい風当たりです。子供の物語のように、すべてが理想の通り、正しく温かいものがそのまま実現するというわけにもいかず、または私たちの能力の届かない所もあり、何事も思うがままに行く事はありません。しかし、信仰にあっては私たちは望んでいる事柄を先んじて既に得たりと確信し、見てもいない有象無象の青写真が、くっきりと正確に私たちの手中に実現するということを確認することが出来る、本当に私たちの手元に願うものが到来し、私たちは確認の判子を受け取り表に捺印することが出来ると聖書は語るのです。それが信仰であると聖書は語ります。

信仰とは何でしょうか。それは心の慰め、それは心の平安、ある人によっての心のよりどころ、それはその人その人が選択すべき心の在り方であって、必要だと思う人はどうぞお進みなさい、しかし、何事も信心をしたからといってすべてが開けるといってすべてが開けるといって事柄は簡単ではあ

りませんよ、というのが多くの方々のご意見なのではないでしょうか。

しかしここで繰り返し、繰り返し語られます「信仰」ということは、そのように頼りにならない、私たちの心の在り方ということ以上の力強さをもって私たちに迫ってきます。

- 1 さて、信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである。
- 2 昔の人たちは、この信仰のゆえに賞賛された。
- 3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを、悟るのである。

私たちは目に見えるものに一喜一憂します。むしろ目には見えないものの方が大切なのだということは、薄々気が付いています。目に見える結果よりもその頑張り、目には見えない人の愛情、命、などなどです。水、空気、命など、本当に大切なものは自然に与えられていると言いますが、実は自然にできたものではありません。

- 3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを、悟るのである。

創世記 1:1 はじめに神は天と地とを創造された。

- 2 地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。
- 3 神は「光あれ」と言われた。すると光があった。
- 4 神はその光を見て、良しとされた。神はその光とやみとを分けられた。
- 5 神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕となり、また朝となった。第一日である。

聖書による、この世界の初めの創造はこのようなものでした。

はじめ、地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにありました。それは混沌であり、カオスでした。形なく、秩序もなく、法則もなく、ただ混沌と暗闇。今も私たちは「ダークサイド」などと言いまして、人の心の暗部や、社会の知られざる暗部を指して言いますが、この頃は空っぽな、混沌の、無機質な世界あるのみでした。

そこに神様がおことばを掛けられたのです。「光あれ」と言われますと、光が出来ました。あたたかい、命を育む、善を育む命の光、救いの光が、善なる光が、混沌と空漠の中に生まれました。

このように、神様は混沌の中に光を造られ、そして陸と海と空、太陽と月と星、植物と動物

など、次々に造られ、最後に人間を作られたのです。

私たちは現実の中、困難の中、暗闇と混沌との中、一喜一憂いたします。あれが足りないとか、これが入用だが手に入れないと悩みます。諸々の悩みや暗闇があります。

イエス様はマタイ福音書6章にてこう語られました。

マタイ 6:25 それだから、あなたがたに言うておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるのではないか。

6:26 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。

6:27 あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。

6:28 また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほども着飾ってはいなかった。

6:30 きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。

6:32 これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。

あなたは神の子どもだから、必要なことは皆満たされる。さあ、その通りだという信仰をもって進みなさい。神は無からすべてを造られた。そのお口の言葉によって造られた。だからあなたも同じように、神様のお口の言葉である聖書から慰めを得なさい。光を得なさい。それがまず先決だ。そうすればそれに加えてすべてが与えられるよと、イエス様はおっしゃい

ました。

信仰の世界。それは神様がおられると信じ、その神様は、私たちが信じて願い求める時、その子供たちの願いを歌路地られるお方ではないということを信じ切るところにあります。

6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。

2 昔の人たちは、この信仰のゆえに賞賛された。

7 信仰によって、ノアはまだ見ていない事がらについて御告げを受け、恐れかしこみつつ、その家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となった。

ノアは、晴天の中、世界が洪水によって滅ぶから舟を造りなさいと言う神様のお言葉を守り、お言葉のご指示の通り、実に長さ約137メートル、幅23メートル、高さ14メートルの3階建ての木の舟をつくり、すべての生き物をひとつがいつと彼と彼の家族がその舟の中に入ったのです。ちなみに、この「長：幅：高=30：5：3」の比率は、現在のタンカーなどの大型船舶を造船する際に、最も安定しているといわれる比率とほぼ同じとなるのだそうです。

未だ見ていない、起こるかどうかわからない事でも、神様のお言葉だからということで、真剣に捉えたノアは、自分と家族の命、そしてすべての動物の命を救いました。しかし信じずに彼の行動を馬鹿にしていた人たちは水に飲まれてしまいました。

8 信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った。

9 信仰によって、他国にいるようにして約束の地に宿り、同じ約束を継ぐイサク、ヤコブと共に、幕屋に住んだ。

10 彼は、ゆるがぬ土台の上に建てられた都を、待ち望んでいたのである。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。

11 信仰によって、サラもまた、年老いていたが、種を宿す力を与えられた。約束をなされたかたは真実であると、信じていたからである。

12 このようにして、ひとりの死んだと同様な人から、天の星のように、海べの数えがたい砂のように、おびただしい人が生れてきたのである。

アブラハムは75歳にして、住み慣れた地を後にして、明確にどこに出て行きなさいという指示もままならない中、神様が示された土地へと出発しました。

先ほどのノアもそうでしたが、未だ見ない所で、その予兆も全くない所で多大な資材と労力を費やして、巨大な船を建設するという事は、その従う姿勢には、びっくりいたします。アブラハムもまた、高齢の身で、どこに行くかもわからないまま、自分の住み慣れた地盤を捨てて、そして、「他国にいるようにして」旅人として慣れない地に向かって旅立つのです。この時妻のサラは65歳でした。この「信仰」の世界には目をみはるものがあります。

2 昔の人たちは、この信仰のゆえに賞賛された。

妻サラは75歳にて自分の子を産むことをあきらめて夫アブラハムに側室を迎えることを勧めますが、その後、11節にありますように、高齢の身でしたが、95歳でついに出産することとなります。そしてそのイサクのもとから、天の星のように、海べの数えがたい砂のように、おびたしい人が生れて来ることとなります。

2 コリント 4:16 だから、わたしたちは落胆しない。たといわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日ごとに新しくされていく。

4:17 なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。

4:18 わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。

3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを、悟るのである。

6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。

私たちは、目に見えるものがすべてではないということを知っています。むしろ目に見えないもの、すなわち神様と、そのお言葉、無から有を作り出された神様のお言葉に聞き従うことこそが、私たちの人生に重い栄光の輝きを、救いをもたらすということを知っています。たとえ「他国にいるようにして」旅人として、この地上の旅路をたどるようであっても、私たちの前には約束の地が待っており、不可能を可能となさる神様の御業がいつも前に待っているのです。

13 これらの人はみな、信仰をいだいて死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び、そして、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわした。

14 そう言いあらわすことによって、彼らがふるさとを求めていることを示している。

15 もしその出てきた所のことを考えていたなら、帰る機会があったであろう。

16 しかし実際、彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。だから神は、彼らの神と呼ばれても、それを恥とはされなかった。事実、神は彼らのために、都を用意されていたのである。

このように、ノアも、アブラハムもサラも、神様を目の前にして、見ずとも、理解できずとも、神様のお言葉のとおりに進み、祝福を受けました。しかし彼らも信仰を抱きつつも死んでいきました。喜ばしい、恵み深き様々の導きを神様からいただいても、望んでいる事から確信し、まだ見ていない事実を確認し、力強く信仰に生きても、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じて生きてきても、肉体の衰えは避けることが出来ません。

しかし彼らの祝福の約束の完全な成就是、天のふるさとに用意されていました。

そこが彼らの本国であり、地上では彼らは旅人であり、寄留者に過ぎないと彼らは告白していました。

どんなに住み慣れて、祝福のうちに末広がり楽しく過ごしても、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわしました。それはなぜかと言えば、そう言いあらわすことによって、彼らがふるさとを求めていることを示しています。実際、彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとでした。

取り返しの聞かない、後戻りのできない人生と言います。取り返しが聞くこともあるでしょう。しかしそうはいかないこともあります。成功する人、失敗する人。その間には想像もできない程の格差があり、乗り越えることが出来ません。豊かな国に生まれる人、貧しい国に生まれる人。チャンスに恵まれる人と恵まれない人。それらの決定的な違いにより、どんなに頑張っても頑張っても、その努力の甲斐がないように思われる人がいます。

しかし、地上では旅人であり寄留者であり、もっと良い、天にあるふるさとが待っていると知るならば、この地上での出来事や成績が全てでないならば、それはなんという慰めなのでしょうか。

信仰の世界。それは空想でも気休めでもなく、空漠と広がる混沌の渦に巻き込まれそうにな

っても私たちが救い出す光であり、そうして下さるお方を信じる力であり、そのお方のお言葉に答える時に知られざる奇跡を呼び起こすものであり、そして結局は旅人であり寄留者である私たちへ用意されているさらに勝る故郷へと入らせる神様の恵みの道であることを知るのです。

「昔の人たちは、この信仰のゆえに賞賛された。」

私たちがまた、信仰の先人たちの後に続いて、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認し、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを悟り、「神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じなければならない」との御言葉に生きる者でありたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。このお盆の時、私たちは信仰のうちに更にまさった故郷、天のふるさとに帰られた方々を偲びます。「信仰とは、望んでいる事柄を確認し、見えない事実を確認すること」。信仰により、私たちの望みは確信に変わり、見えない事実も、目に見て取れるように確認することが出来るとの力強い御言葉をありがとうございます。この世界の者すべては、目に見えるものは目に見えない神様のお言葉により創造されました。そして神様は同じ御言葉をもって私たちに語りかけ、私たちのうちに希望と確信と平安と良き将来を形作って下さいます。そしてやがて後、苦勞と悩みに満ちたこの世界から、更にまさった故郷、天の故郷へと導いて下さいます。感謝いたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン